「あかねプロジェクト 2020」ご協力のお礼

今年はコロナ禍で大学祭を始め様々な行事が中止になりました。こんなにも暗い世の中だからこそ、人と人とが繋がり、勇気と希望を持ってコロナの終息を願い、みんなで一つのものを作り上げようという願いのこもった「折り鶴ツリー」と「手形のメッセージボード」の企画を実施しました。

折り鶴ツリーは、学内を始め近隣の小学校、保育園、幼稚園、地域の方々の協力も得て、一つの大きな希望のツリーを作り上げることができました。手形のメッセージボードも子どもの手形を始め、学生や卒業生、スポーツ選手の手形など、多くの人の手形が集まり、ぬくもりの感じられるボードになりました。

これらの企画は僕たちだけではとても実現できませんでした。いつも近くで指導してくださる先生方、企画を発信してくださった記者の方、近隣の小学校や幼稚園、保育園の子どもたち、大学への坂道を登って鶴を届けてくださった近隣住民の皆様の力があって作り上げることができました。本当にありがとうございました。

最後に、このようなコロナ禍でも私たちは前を向き、ひたすら終息を願い頑張っています。皆様も今できることを、今だからできることを一緒に頑張っていただけたらと思います。

あかねプロジェクト実行委員長　石田　怜耶

（広島文化学園大学学芸学部子ども学科3年／広島県立安芸高等学校出身）

20200羽の折り鶴を目標に頑張っていましたが、実際は「本当に集まるだろうか、間に合うだろうか」と不安でした。しかし、学生の方々に折り紙を配っていると「もっと折れるからもっと折り紙がほしい！」という声が多くあり、前向きな気持ちになれました。そして、地域の方々や近隣の住民の方、小学校や福祉施設などから、さらには、県外の方からも折り鶴が届き、目標を上回る折り鶴が集まりました。その数を見た時に、私は人と人の繋がりのすごさを感じました。

この企画は、実行委員だけでは叶えることができなかったと思います。先生方、企業の方々を始め、協力してくださった多くの人との繋がりがあったからこそできたものだと考えています。

今は人と直接繋がることが難しい状況ですが、こうしてたくさんの方々と一つの物を作り上げることができ、とても嬉しいです。そして、この企画を通して実行委員の学生同士の絆ももっと強くなれたと思います。

最後に、この機会に携われたことに誇りを持ち、これからも人と人の繋がりを大切にしていきたいです。私にとって一生忘れることがない思い出になりました。ありがとうございました。

あかねプロジェクト実行委員長　石地　玲奈

（広島文化学園短期大学食物栄養学科2年／広島県立広島商業高等学校出身）